

令和4年度学校評価自己評価シート 三次市立河内小学校

【経営理念】  
 ミッション（使命）：コミュニティ・スクールを核に、郷土愛・地域参画・地域貢献を意識した「資質・能力」の育成を図り“魅力ある学校づくり”を実現させ、地域（保護者）の期待に応える。  
 学校教育目標：気づき 考え 実行する 主体的な子供の育成 ～ つながる・挑む・考動する ～

達成度	達成値	評価	$A \geq 100$	$80 > C \geq 60$
	_____×100		$100 > B \geq 80$	$60 > D$
	目標値			

	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標 (目標値)	8月	達成度	評価委員評価 (5名)			コメント	2月	達成度	評価委員評価 (5名)			コメント
				達成値		A	B	C		達成値		A	B	C	
確かな学力	基礎的な知識・技能の習得と活用する力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの活用、個別学習の取組、各種調査の分析をもとに、単元テスト、公的学力検査における正答率向上を図る。</li> <li>チャレンジタイムにおいて活用問題に取り組み、活用問題の正答率向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元テスト平均値 80%以上達成の児童 80%以上</li> <li>公的学力検査における活用力の正答率全科目全国平均以上</li> </ul>	101.8	A	5	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの活用等、児童の意欲を引き出す取組が積極的になされている。</li> <li>個に応じた指導により、誰一人として取りこぼさない取組が行われている。</li> <li>今後も個別指導を充実させ、努力することの大切さを実感させてほしい。</li> </ul>						
	思考力・表現力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活科・総合的な学習の時間を核として、思考力・表現力の育成に重点を置き、深い学びを引き出す授業づくりに取り組む。</li> <li>表現力を高めるために、アウトプットを意識した学習を行い、発信力を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「資質・能力」児童意識調査、外部アンケートによる肯定的評価 80%以上</li> <li>学習したことを発表する場を各学年1回以上の設定（参観日、学習発表会、ICTの活用等）</li> </ul>	117	A	4	1	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>目指すゴール像を児童としっかり共有して、着実に取組を進めてほしい。</li> <li>課題に対して、考え、意見をまとめ、発表する場を設定し、児童が自信をもって表現できるよう取り組んでほしい。</li> <li>児童の表現力、発信力向上に係る評価方法の工夫も必要である。</li> </ul>						
豊かな心	自己効力感の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育の視点をもった取組を通して、人とつながり、社会参画を通して自己肯定感の向上を図る。</li> <li>作品応募、各種大会参加を積極的に行い、挑戦することで自己効力感を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートの「自己効力感」「自己肯定感」に関する項目において、肯定的な回答をした児童の割合 80%以上</li> </ul>	84.2	A	3	2	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な場面で見通しをもって行動し、何事にも挑戦しようとする力を育成してほしい。</li> <li>苦手なことにもチャレンジし、自分の強みを知り、自信がもてる子にしてほしい。</li> <li>自己効力感を高めるために、大会での入賞、作品応募、作品掲載による効果は大きいと感じている。</li> </ul>						
	自己指導能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的な生徒指導を行い、学校生活における課題発見・解決力を身に付ける。</li> <li>「なりたい自分」を設定することで、目標を意識して生活し、成長を実感できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケート「自己指導能力」質問項目における肯定的評価 80%以上</li> </ul>	94.7	A	4	1	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団生活において、自分も他者も認め合い、励まし合って生活できるようになってほしい。</li> <li>一つの物事を終えた後には、自己を振り返り、自己調整できるかどうか大切になる。</li> <li>自分の将来が見えてくるような取組を行うことも自己指導能力育成には大切な視点となる。</li> </ul>						
健やかな体	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校と連携し「テレビ・ゲーム等の視聴時間減少」を目指す。</li> <li>栄養教諭と連携した食育指導を行い、食の大切さへの理解を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活リズム週間の期間中、アウトメディアに取り組んだ児童の割合 75%以上</li> <li>栄養教諭と連携した食育指導を学期に1回以上実施</li> </ul>	106	A	4	1	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>新学期、再度、三点固定の指導や、メディア視聴のきまりを確認し、家庭と連携して取り組んでほしい。</li> <li>アウトメディアの計画的な取組は小学校段階から継続した取組が必要である。</li> <li>家庭への啓発を今後も継続してほしい。</li> </ul>						
	体力・運動能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育科授業の工夫と、業間体育の継続により運動能力向上を図る。</li> <li>課題のある2項目をターゲットとした重点的な取組を通して、体力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2回目の体力テスト結果において、第1回目の結果を上回った児童の割合 85%</li> </ul>			3	2	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段の遊びの中で、握力等の体力が自然に身に付くようにしていくとよい。</li> <li>陸上大会への挑戦は河内小の伝統であり、強みとなっている。</li> <li>今後も子供たちの挑戦の場を積極的につくってほしい。</li> </ul>						
信頼される学校	学校の説明責任の遂行と情報の開示	<ul style="list-style-type: none"> <li>マスメディアの活用や学校便り・小中一貫だより、コミュニティ・スクール広報誌等の定期発行、アンケートによる学校満足度の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校に対する保護者・地域アンケート肯定的評価 90%以上</li> <li>HPや通信等でC.Sに係る取組を毎学期発信</li> </ul>	109	A	5	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校だより」やHP、メディア発信により、他の地域からも関心を持ってもらえていること実感している。</li> <li>学校だよりのレイアウトを読みやすいように改善してほしい。</li> </ul>						
	学校・家庭・地域による「協育」の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>みよし学園コミュニティ・スクールの推進による小中一貫した「育みたい資質能力」の育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「資質・能力」児童意識調査の肯定的評価を 80%以上</li> </ul>	112.5	A	5	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者主体の行事などに理解を示してもらうことで協力体制が構築されている。</li> <li>学校・家庭・地域が協働し、輝いているのが素晴らしい。</li> </ul>						
	教職員同士の感謝と認め合いによるやりがいの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員同士の声掛けと感謝の全体共有を推進する。</li> <li>教職員の在校時間を分析し、組織的に働き方を改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校衛生委員会の情報交流から、職場の心理的ストレス 0%</li> <li>職員の時間外勤務が毎月 40 時未満 100%</li> </ul>	100	A	3	2	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員同士の意思の疎通をさらに図ることが大切だと思う。</li> <li>教職員のチームワークの良さが子どもの姿に反映されている。</li> <li>管理職が率先して退校時刻を早めることが必要である。</li> </ul>						

※学校関係者評価指標 A：たいへんよい B：概ねよい C：改善の必要がある